

5年前からほとんど変わっていなかった。藻場の主要構成種は、リュウキュウスガモ、ベニアマモ、ウミジグサの3種であった。また各種の生育状況の考察をした。

- (4) 1982年6月14日から19日までの5日間、例年実施している柵網漁獲試験を行なった。5日間の操業で計48種、148個体、108.7kgの漁獲があった。ヒメツバメウオ、ニセクロホシフエダイ、モンツキアカヒメジなどが多獲種であった。
- (5) フェフキダイ類幼魚生態を調べるため、1982年5月17日から10月18日まで追い込み網漁獲試験を11回行なった。また生息密度を調べるための目視調査も同時に行なった。保護水面内の藻場に出現するフェフキダイ類のうちイソフエフキが優占的であったが、他に7種程出現した。フェフキダイ類幼魚の生息密度は、6月後半～8月初め頃までが最も高くなり、4.3～6.3尾/100m²であった。また、イソフエフキの藻場での主要餌料は多毛類であった。
- (6) 1982年6月9日、保護水面内の藻場で底生動物の採集をした。今年度は0.5mm目の細かいふるいを使用したので以前の採集結果ではもれていた線虫類が多かった。
- (7) 1982年5月4日にヒューム管魚礁の、8月31日に1.5m角型魚礁の蛸集魚調査を実施した。ヒューム管魚礁は埋没がひどく蛸集魚は少なかった。1.5m角型魚礁では、タカサゴ、イッセンタカサゴ、ヨスジフエダイ、ニセクロホシフエダイの幼魚とクロリボンスズメダイなど多数の蛸集魚を観察した。
- (8) 1982年4月16日、7月14日、11月26日及び1983年1月24日の4回、水質調査を行なった。

参考文献

畔田正格他、1980. 志々伎湾における底生生活期マダイ当歳魚の分布と成長. 西水研研報(54) 259-278.

Den Hartog, C. 1967. *The structure aspect in the ecology of sea-grass communities. Ielgolander wiss Meeresunters.* 15, 648-659.

——— 1970. *The sea-grass of the world North-Holland, Amsterdam* 275pp.

沖縄県水産試験場八重山支場 1978. 昭和52年度名蔵湾保護水面調査報告 17pp.

——— 1980. 昭和54年度名蔵湾保護水面調査報告 22pp.

——— 1981. 昭和55年度名蔵湾保護水面調査報告 21pp.

——— 1982. 昭和56年度名蔵湾保護水面調査報告 16pp.

Sato, T. 1978. *A synopsis of the saroid fish Genus Lethrimus, with the description of a new species. The University Museum, The University of Tokyo, Bulletin No. 15. pp. pls. 12.*

田中 剛 他 1962a. 本邦産海産顕花植物の分布について. *Acta. Phytotax. Geobot.* 20, 180-183.

——— 1962b. 南西諸島に産するSea-Grassについて. 鹿児島産南産科研報, 3, 105-111+2pls.

立石 賢 1976. マダイ放流種苗の追跡. 種苗の放流効果—アワビ・クルマエビ・マダイ—

日本水産学会編，恒星社厚生閣，東京，102-114.

調査担当者

渡 辺 利 明
勝 俣 亜 生